

9月になりました。大方の学校は二学期がはじまります。

今年の夏は炎暑と記録的な豪雨が同居する不順な夏でした。温暖化は最近はあまり騒がれなくなっていますが、確実に変化が表れていると思われます。日々の営みの中で、変化に気付き、それに着実に対応してゆく。教育も同じ営みかもしれません。今夏も夏の経済教室など収穫の秋に向け、活動を続けてきました。

今月もこのようなネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

8月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

8月は各地で夏休みの経済教室が開催されました。その内容を報告します。

■「夏休み経済教室」に902名の先生方が参加しました

第七回目になる、「先生のための夏休み経済教室」が名古屋、大阪、東京で実施され、延べ902名の先生方の参加で盛況のうちに終了しました。

各会場の参加者は以下のとおりです。

場所	日程	参加者数	会場
名古屋中学	8月4日	52名	ウインクあいち
同高校	8月5日	46名	同
大阪中学	8月7日	108名	国民会館
同高校	8月8日	89名	同
東京高校	8月14日	171名	東証ホール
同	8月15日	173名	同
東京中学	8月18日	148名	東証ホール
同	8月19日	115名	同
合計		902名	

この数字は、昨年よりやや少ない数字ですが、昨年が福岡を含め5会場で行われたことを考慮すると確実に定着していると言えるでしょう。

■各会場での講義や実践報告は次のようでした。

1) 名古屋会場

初日は、升野伸子先生（筑波大学附属中）と栗原久先生（東洋大学）のコラボでの「教科書の比較から教材研究のヒントをゲット！」から始まりました。升野先生は、中学教科書の比較から授業やテストのヒントが得られることを多数の事例から紹介されました。栗原先生は中学の教科書が変わって、これまで高校でとりあげられた事項やかなり高度な金融の話などが入ったこと、それをいかに活用するか的心構えを、経済教育は考え方を提供するという視点から説明されました。

読み解くシリーズは、野間敏克先生（同志社大学）の「中学教科書で読み解くアベノミックス」です。野間先生は、アベノミックスの三本の矢のすべてをうまく中学教科書から説明するのはちょっと難しいけれど、プラスアルファの知識や理解があれば可能であるということで、丁寧に三本のそれぞれを読み解いた講義をされました。

授業紹介は、河原和之先生（立命館大学他）と加藤一誠先生（日本大学）による「インドを知ろう」という教材を使った授業です。これは、地理と経済の融合を目指す教材で、河原先生の「ネタ・ゲーム・討論を使って思考力、判断力を培う経済の授業」づくりの解説を踏まえて、授業を再現されました。

初日の最後は「みんなで語ろう」。山根栄次先生（三重大学）、水野英雄先生（椋山女学園大）を加えて8名の先生方とじっくりと情報交換や質疑をおこないました。

二日目高校は、榊原宏司先生（日本取引所G）の「高校教科書で教えるM&A」から始まりました。榊原先生は、M&Aの実例などを踏まえて、教科書や入試問題でも登場しているM&Aをリアルに紹介されました。

歴史シリーズは、野間敏克先生（同志社大学）の「ニクソンショック」です。今や歴史になったニクソンショックをブレトンウッズ体制の成立から整理して、IMFの役割や変遷を丁寧に読み解きました。

午後は、小巻泰之先生（日本大学）の「新しい国際収支表から経済の動きを読む」の講義が行われました。今年1月から変更された国際収支表の紹介と、それを日本経済のマクロの動向とリンクさせていかに読み解くかの解説がありました。

高校の最後は、中川雅之先生の「法と経済から考える社会保障」の講義です。中川先生は、世代間格差を解消するためには、経済学の観点からは積み立て方式が望ましいことをモデルを使ってやさしく解説されました。

高校向けの二日目は、一日四コマの講義となりましたが、先生方は熱心に参加されていました。

2) 大阪会場

大阪会場のプログラムは名古屋と同じものです。参加者のなかには、遠く沖縄からの先生もいらっしやって、熱心に講義をうけられていました。

講義される各先生方は、名古屋での反応や質疑を踏まえて、内容を調整されてのぞんでいました。なお、河原先生と加藤先生のコラボの授業提案の内容は、ブラジルの教材をメインとした新たな授業提案をされました。初日の最後、「みんなで語ろう」では、最初に猪瀬武則先生（日本体育大学）からの問題提起があり、先生方が少人数に分かれ情報交換を行いました。

3) 東京高校向け会場

東京会場では、初日は、これから経済の授業に取り組もうとする若い先生方向けの Basic 講座が三つ行われました。Basic1 は、大倉泰裕先生（前教科調査官）による「経済の授業のつくりかた」。大倉先生は、指導要領の精神から経済の授業は見方や考え方をつたえるものであり、そのための技能や知識が必要ということで、具体的な授業つくりを示唆されました。

Basic 2 では、大杉昭英先生（国立教育政策研究所）が「テスト問題をつくるための視点と方法」で、キーコンピテンシという概念をもとに、問いと答えをつなぐ授業が必要で、教師の支援なしで答えを追究させるものがテストであるとして、具体的なテスト例を紹介されました。

Basic3 の授業つくりは、高橋達也先生（都立桜修館中等教育）が作成した行列を巡る授業案を、手塚広一郎先生（日本大学）と加藤一誠先生（日本大学）がエコノミストの観点から、高橋案は多様な要素を繰り込みすぎて、時間コストなど一つの視点から整理するとしっかりした経済の授業になるとの指摘がされました。

講演は、浅子和美先生（一橋大学）による「経済学が歩んできた道」です。浅子先生はアダムスミスから現代のゲーム理論や、実験経済学、行動経済学まで 250 年におよぶ経済学の歴史を、時々課題に対して経済学者がどのように取り組んできたかを流れをしっかりと押さえて、コンパクトに解説されました。

二日目は、名古屋、大阪と同様に榊原先生、野間先生、中川先生の三つの講義が行われました。加えて、西村理先生（同志社大学）の「入試問題を活用した経済学習の進め方」が講義され、ミクロ経済学関連の入試問題の解説が行われました。

4) 東京中学向け会場

中学向け会場では、Basic 講座として、栗原久先生（東洋大学）から「中学教科書で教える経済的な見方や考え方」から始まりました。栗原先生は、トレードオフや機会費用、インセンティブなどの概念を利用した授業例を途中「グーパーじゃんけん」などを入れながら理解の伴った経済教育の必要性を

主張されました。

実践紹介では、大阪の李洪俊先生（大阪市立長吉中）の「中学校で教える需要と供給」の授業と、東京の仲村秀樹先生（江東区立辰巳中）の「模擬的な授業づくり」の二つが提案されました。

午後の実践紹介では、「新聞を使った楽しい経済の授業」のテーマで、大阪の佐藤俊彦先生（茨木市立彩都西中）と河原和之先生から実践例が紹介されました。

初日の最後は、野間先生の「アベノミックス」の解説が行われました。

二日目の最初に登場したのは河原和之先生で、「地理と経済の融合教材」の講義とインドとブラジルの教材紹介をされました。

ついで、加藤先生の「より良い生き方を経済で考える」の教材紹介がされました。これは、機会費用の考え方をベースとしたキャリア教育用の教材です。

午後の実践紹介では、三枝利多先生（目黒区立東山中）の「体験的手法による法と経済の授業」提案がされました。無人島シミュレーションの発展で、どのようなルールを作り取引を発展させるか、会場の先生方との参加型ですすすめられました。

最後は「みんなで話そう」でした。4グループに分かれた先生方との質疑、情報交換が最後まで熱心に行われました。

参加の先生方からは、「若い先生をターゲットにして講義でしたが、新鮮な切り口も多く、興味をひかれる内容でした」などの声がよせられ、夏の経済教室は、今年も無事終了しました。

なお、上の教室の内容の詳細及び会場で寄せられた質問への回答などは、内容の整理が終わり次第 HP に掲載される予定です。

【 2 】 イベントカレンダー

これからの部会を開催順に紹介します。

■大阪部会 (No. 40) を開催します。

日時：2014年9月20日（土） 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階(予定)

内容、参加方法は下記の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka40flyer.pdf>

■東京部会 (No. 69) を開催します

日時：2014年9月24日（水） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部

内容、参加方法は下記の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo069flyer.pdf>

■札幌部会 (No. 11) を開催します。

日時：2014年9月27日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7番地

sapporo55 5階 (JR札幌駅紀伊国屋のビル)

内容、参加方法は下記の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo011flyer.pdf>

■東京部会特別例会「宮尾尊弘先生の経済教室」を開催します。

日時：2014年11月15日(土) 15時00分～17時30分

場所：日本大学経済学部

内容、参加方法は下記の HP をご覧ください。

■関連団体からのお知らせ

(1) 野村総合研究所から

「NRI 学生小論文コンテスト」締め切りまじかです。9月5日まで。

まだ、間に合います。生徒に参加を呼びかけてください。

内容、参加方法の詳細は下記 HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/etc/NRIcontest2014.pdf>

(2) 金融広報中央委員会から

「金融教育に関する実践報告・小論文コンクール」は9月30日です。

先生方の実践や論文をまとめるチャンスです。また、中高生向けのお金の作文コンクールもまだ間に合います。

内容、参加方法の詳細は下記 HP をご覧ください。

<http://www.ron2014.jp/pdf/tc.pdf>

【 3 】 授業のヒント

■宮尾先生のシンプル経済教室

ネットワークの理事をなさっている宮尾尊弘先生（筑波大学名誉教授）が、シンプル経済教室を YouTube にアップされています。

現在のところ7本がアップされています。

経済教室1：需要供給1 「山の上の飲み物はなぜ高いのか」

経済教室2：需要供給2 「レモンはどこまで絞ったらいいか」

経済教室 3：需要供給 3「最初がどれだけ肝心か（クラス実験）」

経済教室 4：効率と公平 1「どれだけ効率的な社会に住みたいか」

経済教室 5：効率と公平 2「貧富の差の拡大をどうしたらいいか」

経済教室 6：公共と協力 1「人が協力することはなぜ難しいか」

経済教室 7：公共と協力 2「いかに人を協力させるか」

ビデオだけでなく、講義要旨や補足のクラス実験やアンケートもアップされています。タイトルでお分かりのように、経済学習の基本である需要供給の考え方や指導要領で取り上げられている効率と公平（公正）などの学習のヒントになる内容と体験的授業の事例がぎっしり詰まっています。

一回のビデオ講義は7～8分です。ぜひ先生方もご覧になって、授業に活用されるとよいと思います。なお、次のアドレスからは簡単にアクセスできるようになっています。

<https://sites.google.com/site/econeduvideo/>

【 4 】編集後記（みみずのたはこと）

「夏の経済教室」に参加をして印象的だったのは、東西の文化の違いでした。これは特に中学校の実践報告で感じました。東の先生方は授業計画や授業内容など緻密でかつちりとしたものを提示します。野球で言えばジャイアンツ。西の先生方はおおらかにまずは生徒をびっくりさせたり、面白がらせたりする内容から入ります。タイガース風です。その発想の違いはかなり鮮明でした。どちらが良い悪いではなく、生徒の実態、風土の違いとではないかと思います。では、東西の境目はどのあたりにあるのでしょうか。名古屋はまじめ文化とすると、関が原あたりなんでしょうか。

（新井）

=====

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇